

移動サービス利用の負担金の基準の作成について（案）

主目的：料金問題を含めた不当な攻撃で、市民（会員）に必要な活動がやりにくくなったり、活動停止に追い込まれるような事態を防ぐ。

手段：移動サービスを行う団体に対して言われる「利用料金が低い」等の第三者（業者・行政機関を含む）の意見や警告に、市民活動団体として、料金の内容を説明できる基準を作成する。

付随する効果：団体間の連携が行いやすくなる。

趣旨：NPOにおける移動サービスは、会員同志の助け合いという観点から、移動サービス利用にあたっての利用会員の負担金は、高額であってはならない。高い、安いと、単純な比較で言ってしまうが、負担金の適正額は、団体の条件によって異なってもよいと考えられる。

団体を維持するにあたっての必要な負担割合を提示し、基準となる金額を捜し求めてみよう。公的資金や各種助成金の収入があることなどで、各団体が、負担割合を少なく設定する事には全く問題はない。

階段等の重介助はもちろんのこと、一切の車外の介助の負担金は、車両による移動そのものとは別に計算すべきである。負担金とは、担い手側から利用会員への請求額を意味し、利用会員からの自発的な寄付金は、負担金とは異なる。

方法：団体運営の必要項目ごとに、負担割合を考慮する。

次の1年間を計算する。従って、計算は、年度ごとにやり直しが必要。とくに、繰越金が高額になった場合、活動会員のボーナスのようなことはせずに、次年度の活動補助金にするなど、適正な使い道を考慮する。

団体を維持するための固定費と、利用状況に応じて変動する流動費に分けて計算する。

固定費

1, 車両

・車両購入費年間負担割合

$$\begin{aligned} & \text{車両購入価格} \\ & \text{1台あたりの負担} = \frac{\dots\dots\dots}{\text{使用予想年数}} \\ & \text{団体所有の負担合計} \times 1 = 1 \text{号車} + 2 \text{号車} + 3 \text{号車} + \dots\dots\dots \end{aligned}$$

例：団体Aがリフト車3台をこの数年以内に購入した。

420万円で購入した車両は、7年使用予定。

150万円で購入した車両は、5年使用予定。

40万円で購入した車両は、3年使用予定。

$$\begin{aligned} & \frac{420 \text{万}}{7} + \frac{150 \text{万}}{5} + \frac{40 \text{万}}{4} \\ & \times 1 = \dots\dots\dots + \dots\dots\dots + \dots\dots\dots = 100 \text{万} \end{aligned}$$

・車両維持費年間負担割合

$$\text{次年度の予想整備費（車検）} \cdot \text{駐車場代その他の合計} \times 2$$

2, 保険

・自動車保険

$$\text{次年度の予想自動車保険負担合計} \times 3$$

・その他の保険

$$\text{次年度の予想居宅介護保険負担合計} \times 4$$

3, 固定人件費

次年度の、事務員等の月給制の固定した活動会員への人件費合計 X 5

4, 事務費

次年度の、予想される事務所代、電話代、郵送費等の合計 X 6

$$X 1 + X 2 + X 3 + X 4 + X 5 + X 6$$

1 件当たりの固定費負担額 X =

団体の次年度予想活動件数 Y

- 例：団体 A の次年度予想 X 2 = 20 万円
- X 3 = 50 万円
- X 4 = 5 万円
- X 5 = 200 万円
- X 6 = 100 万円
- Y = 5000 件

$$X = \frac{100 \text{万} + 20 \text{万} + 50 \text{万} + 5 \text{万} + 200 \text{万} + 100 \text{万}}{5000} = 950 \text{円}$$

流動費

活動会員手当（月給制でない、活動会員の歩合給）

通常 1 時間 1500 円（10 分 250 円）

待機は 1 時間 1000 円

夜間・一般休日時間は、割り増しとしても、

1 時間 2000 円～3000 円

燃料費 ガソリン車 1 20 円

軽油車 1 10 円

例：団体 A が、平日の日中、利用会員を自宅のベッドから病院へ連れて行く。歩合給の活動会員が、団体の駐車場からリフト車を運転して利用会員宅へ行く（12 分）. 240 円

2 階の部屋のベッドからおんぶして階段昇降機の椅子へ移す。昇降機は自分または家族が操作して 1 階へ下りる。昇降機の椅子から車椅子へ移す。車椅子を押しして廊下を移動し、玄関の段差を下ろす。玄関から庭を 10 m 通り、門の外に出る。門から道路まで、階段 15 段を引き下ろす。車椅子をリフト車に載せ、リフトを上昇させ、車椅子を車内前方へ移動し、フックで固定する。

リフト車（ガソリン車）を運行する（病院まで 8 分）. 160 円

車椅子を下ろす。病院の受付まで車椅子を 30 m 移動する。別れる。

団体の駐車場へ帰る（15 分）. 300 円

全所要時間 1 時間 20 分 2000 円

流動費 活動会員手当 2000 円

燃料費（35 分）. 700 円

小 計 2700 円

固定費 X 950 円

合計請求金額（利用会員負担金） 3650 円

この場合、利用会員が 5000 円を支払い、お釣りは取ってくれと言ったとする。

非営利活動にチップという考え方はないので、活動会員は「1350 円分は会へのカンパとしてお預かりします」と受け取り、会計は寄付金として処理するのが良いと思う。